

みずほCustomer Desk Report 2019/01/04 号(As of 2019/01/03)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	-
TKY 9:00AM	107.43	1.1313	121.72	1.2521	0.6921
SYD-NY High	109.12	1.1411	123.78	1.2646	0.7019
SYD-NY Low	104.10	1.1310	117.85	1.2409	0.6715
NY 5:00 PM	107.65	1.1394	122.61	1.2637	0.7005
NY DOW	22,686.22	▲ 660.02	日本2年債	-	-
NASDAQ	6,463.50	▲ 202.43	日本10年債	-	-
S&P	2,447.89	▲ 62.14	米国2年債	2.38	▲ 10.02
日経平均	-	-	米国5年債	2.35	▲ 11.31
TOPIX	-	-	米国10年債	2.55	▲ 8.11
シカゴ日経先物	-	-	独10年債	0.1505	▲ 1.35bp
ロンドンFT	6,692.66	▲ 41.57	英10年債	1.19	▲ 1.60
DAX	10,416.66	▲ 163.53	豪10年債	2.1845	▲ 9.45bp
ハンセン指数	25,064.36	▲ 65.99	USDJPY 1M Vol	9.93	1.41%
上海総合	2,464.36	▲ 0.93	USDJPY 3M Vol	9.35	0.75%
NY金	1,294.80	10.70	USDJPY 6M Vol	9.10	0.53%
WTI	47.09	0.55	USDJPY 1M 25RR	-2.00	Yen Call Over
CRB指数	171.55	1.16	EURJPY 3M Vol	10.11	0.67%
ドルインデックス	96.28	▲ 0.54	EURJPY 6M Vol	10.03	0.40%

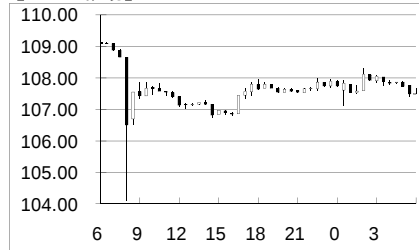
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月3日	22:15	米 ADP雇用統計	12月 271k	180k
	22:30	米 新規失業保険申請件数	- 231k	220k
1月4日	00:00	米 ISM製造業景況指数	12月 54.1	57.5

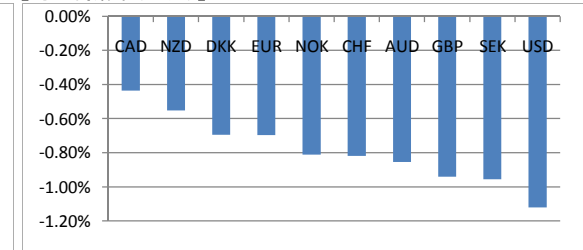
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
1月4日	10:45	中 財新 サービス業PMI	12月 53.0	53.8
	19:00	欧 CPI/CPIコア(前年比)	12月 1.7%/1.0%	2.0%/1.0%
	22:30	米 非農業部門雇用者数変化	12月 184k	155k
	22:30	米 失業率	12月 3.7%	3.7%
	23:45	米 マークイットサービス業PMI・確報	12月 53.4	53.4
1月5日	00:15	米 パウエルFRB議長、討論会に参加	-	-
	00:15	米 ボスティブ・アトランタ連銀総裁、討論会に参加	-	-
	03:30	米 バーキン・リッチモンド連銀総裁講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.80—108.80	1.1340—1.1440	121.50—123.50

【マーケットインプレッション】

昨日のドル/円は、アジア時間オープン前に米通信大手の売上高下方修正を受けたリスク回避の動きから流動性の少ない中104.10円まで暴落。その後は急速に買い戻され107円台後半に回復した。海外時間では、米12月ISM製造業景況指数が2016年11月以来の低水準となったことで、107.11円まで下落したものの、米株式市場が下落幅を縮小する中108.30円まで上昇。その後再び売りに押される展開となっている。

本日のドル/円は上値の重い展開を予想する。日本祝日明けとなるものの、流動性は引き続き低く、実需の買いも本日は限定的と思われる。リスクオフムードが広がる中、ボラティルな動きとなり急落するリスクには注意したい。

アジア	前日NYクロス後、アジア時間オープン前にドル円は一時104.10まで暴落。一部報道によると、米通信大手が2018年10-12月期の売上高を当初想定していたよりも5~10%下方修正したことで、時間外取引における同社株が急落。こうした動きに伴い米株先物が下落すると、流動性が薄い時間帯だったこともあり、ドル円は一時104.10安値をつけた。円買い一巡後は107円台まで急激に反発し、アジア時間のドル円は107.43レベルでオープン。その後、一時は107円台後半まで値を戻す場面が見られたものの、落ち着いた値動きが続き、徐々に水準を切り下げる展開となった。ハンセン株指数が一時前日比▲0.7%となるなど、アジア株が全般的に軟調推移する中、ドル円は再び107円台を割り込み106.75まで下落。結局、106.89レベルで海外市場に渡った。(香港時間14:30)
ヨーロッパ	ロンドン市場のドル円は、106.89レベルでオープン。NY・アジア時間の下落幅を縮小する形で推移し、一時107.95まで上昇した。その後はレンジ相場となり107.66レベルでNYに渡った。ユーロドルは、1.1364レベルでオープン。小幅上昇から始まったものの、ドルの上昇を背景にユーロドルは小幅に下落し1.1344レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2545レベルでオープン。バーレイ離脱担当相が英大衆紙に「ユーロで「議員が今月、政府の離脱合意案を否決すれば、合意なき離脱の可能性がかなり高くなるだろう」とコメントしたことや、ドルが上昇したことが重しとなり上値重たく推移した。1.2562レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	ドル円は107.66レベルでNYオープン。朝方は米12月ADP雇用統計が前回分が下方修正される一方、結果が予想を上回ったことから、108円ちょうどまで戻す。続いて発表された米12月ISM製造業景況指数は景気の分岐とされる50は引き続き上回ったものの、国内向け新規受注が大幅に低下する等、昨日の米通信大手の10~12月の売上高見通し下方修正を裏打ちする結果となり、107.11まで下落する。その後は大幅に下落していたドル円が一旦下げ渋る展開にドル円は30セントカバーが持ち込まれ、108.30まで戻す。午後は、再び株式市場が下げ幅を拡大し、米長期債利回りも昨年の1月中旬以来に2.55%を割り込む展開に107.40まで反落し、107.65レベルでクロスした。一方、ユーロドルは、1.1344レベルでNYオープン。朝方は小幅な値動きが続くが、ISM製造業景況指数結果を受けたドル売りに1.1411まで戻す。午後は、翌日の米雇用統計発表を控え、1.1400付近での推移が続き、1.1394レベルでクロスした。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:玉井・綱島